

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200054		
法人名	株式会社 GAKUSAN		
事業所名	グループホーム のりこハウス		
所在地	恵庭市駒場町6丁目1番1号		
自己評価作成日	平成26年4月4日	評価結果市町村受理日	平成26年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0191200054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成26年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのりこハウスは、1階に小規模多機能施設が併設され、2階に1ユニットのグループホームとなっております。小規模多機能施設との共同理念『医療・福祉・介護の連携を図り人々の心を支えます。人の辛さを思いやり、慈愛の気持ちをもって地域に役立つことを目指します』について質の向上を目指し、連携・協力しあい活動を行っております。緩和ケアクリニック・恵庭が併設されているため、医療との連携が図られ、訪問診療や臨時、緊急時の往診にも対応がとれるため、入居者様が安心して暮らせる状況となっております。入居者様が自分らしく暮らせるように、町内会の皆様との連携や、落ち着いた暮らせる環境づくり、楽しみがもてるようにボランティアの皆様のご協力によるレクリエーション、外出等の行事を積極的に実施しています。また、様々な研修会への参加により資質の向上を図り、入居者様の気持ちに寄り添った支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム のりこハウス」は、恵庭駅から車で5分の商業施設がある住宅地に立地し、系列の医療法人クリニックと法人の小規模多機能施設が併設されている。建物の2階が1ユニットのグループホームである。屋内の広い廊下の空間を各コーナーに分けて観葉植物や花を飾り、利用者が好きな場所で心地よく過ごせるように工夫している。併設している系列の協力医と連携して看取りにも可能な体制を整える等、家族の安心感に繋がっている。また、運営推進会議や火災避難訓練、大きな行事、スタッフ会議を小規模多機能施設と合同で行い、運営方針を共有している。法人間の利便性を高めて地域との関係作りも徐々に浸透している。管理者は年間目標を作り、職員と一体になって前向きに取り組む中で前回の課題もほぼ達成している。職員は各担当を受け持ち運営に参加している。年間の研修計画を基に内外で学ぶ体制が充実しており、マニュアルや書類関係も整備している。併設施設との合同レクリエーションの他、外出行事などにボランティアや家族の協力を得て外出の機会が多く、利用者の好みを反映した食事を提供し、職員は意向に沿った個別ケアを行い利用者どゆったり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し、職員の名札の裏にも記載している。各職員はその理念を共有し実践に取り組んでいる。	毎月のスタッフ会議に運営母体である系列法人のクリニック院長も参加して、法人事業所共通の理念を確認している。開設5年目に入り、理念に沿ったホーム独自の目標について検討している。	新たな視点から職員間で話し合い、事業所独自の目標づくりを期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に参加していただいたり、町内会の行事に参加させていただき、つながりをもっている。また、ボランティアの方々が毎月訪れてきてくれて、色々な活動を支援してくれる。幼稚園の園児も来設し合唱など披露してくれた。26年度は地域の一員として更に深められるように計画している。	町内会の焼き肉大会に利用者も参加している。併設施設との合同主催「のりこハウス祭り」には近所の子供たちが遊びに来ており、住民との交流機会になっている。地域住民への相談窓口を設置し、更に地域との関係作りを検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学者に対して認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。また、就業体験を通して伝えている。26年度は老年看護実習も受け入れる。地域の相談窓口としての活動を実施し、認知症サポーター養成講座を実施する予定も立てている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、市職員、消防署職員、地域包括支援センター職員、入居者家族などに参加して頂き、取り組みや実態についての報告を行っている。それらに対する意見やアドバイスを施設のサービス向上に役立っている。	運営推進会議は小規模多機能施設と合同で開催し、運営状況や避難訓練等の報告を中心に行っている。全員の家族に会議案内を送付しているが、1～2名の参加になっている。議事録の送付は検討中である。	テーマを設定した会議案内の送付で家族の意見が議題に上り、会議が意見交換、情報交換の場となり家族の関心が高まるような取り組みに期待したい。また全家族への議事録送付を期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括ケア会議、運営推進会議を中心に市役所との連携を図っている。通年雇用支援事業に関わる実習生の受け入れも行っている。毎月の入退去状況の報告や、必要に応じて情報を頂いている。	市の通年雇用促進協議会の依頼に協力し、実習生を毎年受け入れている。住民を対象にした認知症サポーター養成講座の開催を市の担当者と連携して今年度実施する方向で検討している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止行為11項目の掲示と、身体拘束に対するマニュアルを職員がいつでも目に見える状況をつくり、適切な理解が図れるようにしている。また、研修会への参加と内部研修により展開を行い、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止行為をユニット会議で再確認している。外部研修で身体拘束を役割演技で学び、勉強会で再演して体験的に拘束の弊害について理解を深めている。また命令口調になりやすい、語尾の「して」の言葉遣いに注意している。日中はエレベーターの利用や玄関の出入りが自由に行える。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないように入居者の言動や身体状況の確認を行っている。研修会への参加や同業者との情報交換を行い意識向上を図り防止に努めている。			

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を高めている。必要性のある入居者様に対して市や地域包括支援センターに相談し、ご家族様と話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階から、当グループホームの概要について説明を行い、入居契約時には不安や疑問点のないように取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行している“お便り”や“ご様子について”にて、日常の活動や様子についてご連絡し、面会時や、必要時には電話にてご連絡している。それらの内容や、その他のお話があった際には、『相談・要望・苦情記録書』に記載し運営に反映させるように取り組んでいる。玄関には『ご意見箱』も設置している。	家族の来訪時にはコミュニケーションを図り、意見を聞く姿勢で対応している。意向や必要なことは「連絡ノート」や個人毎の「情報共有ファイル」に記録して内容を共有しているが、情報の一元化を図るために記録方法の工夫を重ねている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の引き継ぎ時やユニット会議、面談時に意見や提案があった場合には、管理者ミーティングやスタッフ会議に必要と判断されるものについては反映できるような体制となっている。	前もって職員の意見を聞くようにし、全職員の意向を会議に反映させている。職員は各担当を受け持ち、グループでテーマ毎に内容を検討して会議に諮り意見を交換している。管理者との個人面談があり、職員は常に相談しやすいと感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働時間に関しては、最大限の努力をしてくれている。各自の向上心や働きがいがもて、満足が得られるように職場環境の整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会への参加等研修の機会は確保されている。職員個人の力量に合わせた指導・助言を適宜に行い、日々のトレーニングを行っている。また、専門のアドバイザーに定期的に来て頂き、職員教育のために助言を頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度行われる市内のグループホームネットワークの会に出席しており、研修会を通じて同業者との交流や勉強会の機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多くとり、ご本人様の言葉や行動により不安や望みを汲み取り、安心して出来るだけ早期に安心して暮らせる居場所づくりや関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して話しが出来る環境をつくるよう配慮している。話しをしやすい状況をつくりながら傾聴し、状況に応じた返答やアドバイスを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より生活状況を確認したり、日常生活の様子を聞くなどして、支援体制を提案している。特に入居当初は電話などにより情報提供をこまめに実施し安心感をもっていただくのと、支援体制の意見交換にむけて配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに相談や提案等を行いあえるよう、共同生活者、または人生の先輩・後輩としての関係を築けるように配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様が暮らしていく中で、時にはご家族様に無理ご協力頂き支える体制をとっている。それにより、ご本人様も安心でき、また、ご家族様も支えているという絆を保てられるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人がこれまで過ごしてきた関係性を大切に、家族と協力しあいながら支援につとめている。	同じ町内会だった友達が来訪している。昨年は住職を招いて事業所内で「花まつり」行事を行い、昔を懐かしんでもらう機会になった。本人の希望に沿って、家族の協力を得ながら馴染みの人や場所への支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はもとより、共同生活している全員が支え合い、関わりを持てるよう支援することに努めている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去された方のご家族様より相談を受けるなど、関係を維持するようにしている。また、死亡退去となったご家族様が現在もボランティアとして来設してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様の意向をコミュニケーションや日常のケアにより把握し、アセスメントシートに蓄積し情報を共有している。その意向に対して可能な限り実現に向けて検討している。	利用者に問いかけて会話や反応から思いを把握し、職員間で情報を共有している。「入居者情報」シートを3か月毎に見直し、特に意向や医療的な情報を蓄積してアセスメント記録に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、紹介先の担当者からの情報と、可能であれば自宅や利用しているサービス利用状況を訪問させて頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様とコミュニケーションによる情報と、日常のケアで知り得た情報により把握すると、ご家族様のご意見も取り入れた中で情報を共有し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の要望や意向と医療関係者の意向を踏まえ反映させるように計画を作成している。モニタリングでは、各担当職員が実施し会議で話し合いを行い、全員参加の介護計画づくりを実施している。	介護計画を3か月毎に見直し、担当職員のモニタリング記録を基に話し合い、介護計画を作成している。介護計画に連動した「介護記録表」を作成しているが、次の見直し時に繋げるような記録内容を更に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録記入は実践され情報の共有はできている。記録の方法や情報の共有方法等は常に検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズやニーズの変化に対して柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用できるように情報の収集に努めている。個々の能力や、必要に応じて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設されている緩和ケアクリニック・恵庭をかかりつけ医としている方には月2回の訪問診療と応急時や緊急時にも往診して頂き、必要と判断された場合には専門医を紹介していただいている。それ以外の方も往診に対応して頂き、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の8割は併設している協力医の往診を受けしており、緊急時の往診も可能な体制になっている。かかりつけ医の受診には、家族の事情や必要に応じて職員が同行することもある。往診と受診の内容を別様式に記載して個人毎に把握している。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談役が看護師であり、日常的に情報伝達を実施している。必要に応じて往診に結びつけられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の医療連携室と連絡をとりあい情報交換に努めている。通院等は受信先の医師や関係者に相談等おこない、連携や関係づくりができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、緩和ケアクリニック・患庭の協力を得て、家族とともに話し合いの場を持ち、ご本人様やご家族様の希望を大切にしながら、医療・介護・家族の役割領域を明確化し、方針の共有、実践を行っている。	利用開始時に看取り指針を含めて説明し、同意を交わしている。病状の変化時には関係者で話し合い、主治医の判断の下で看取りを希望する場合は「看取りについての同意書」を交わしている。方針の内容は個別ファイルに綴じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームネットワークの会が開催する研修へ参加し準備を整えている。また、スタッフ会議時に緩和ケアクリニック・患庭の医師より指導も行われている。今後は具体的な訓練をグループホームの職員間で実践できるように計画する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、災害時の対応方法を消防署の参加・指導の下、また町内会の協力もあり、連携も図れている。運営推進会議等を通して避難が必要な事態が発生した際の対応検討も行われている。非常時の水や食料の準備も確保している。	消防署立会いで、併設施設と合同で昼夜間を想定した火災避難訓練を行い、町内会役員は見学で参加している。地震等を想定した訓練は今後の課題になっている。職員の救急救命訓練は研修会の中で消防署の指導の下で行われている。	災害時の地域との役割分担を運営推進会議で明確にし、町内会役員や近隣住民の参加を得て、夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。地震を想定し、事業所内で危険の確認やケア場面での対応などについて、職員間の話し合いを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議では、緩和ケアクリニック・患庭の院長より挨拶や言葉遣いについて徹底して指導があり、人格を尊重した対応に努めている。	採用時研修や内部研修で接遇を学んでいる。話しかけは敬語を基本として、申し送り時も個人名が特定できないように番号などで伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自らの思いや希望を表現できる環境になるよう心がけて支援している。自己決定についても、自分で決定できる雰囲気づくりになるよう配慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者の希望にそった対応をこころがけている。また、その希望を予測した対応がとれるようにモニタリングを行い支援に結びつけられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら選び着ている服を褒める等の声かけや、外出時や行事の時には、化粧や一緒に服を選んでお洒落を楽しめるように支援している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に何を食べたいかを聞いてメニューに反映させたり、準備や後片付けと一緒にできるように声掛けし、食事意欲や関心を高められるようにしている。	献立は、食材に合わせて当日の調理担当者が考えている。回転寿司などの月1回の外食や、ボランティアによる蕎麦打ちを楽しんでいる。畑で収穫した野菜が食卓に上る事ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食嗜を含めた個々の適切な食事形態を把握し対応を図っている。水分については、飽きないよう数種類のメニューから本人に決めてもらい提供し、必要量の摂取量が出来よう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを日課としている。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助の対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンや能力に応じた支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用を最小限にできるよう支援している。	介護記録に排泄を記録し、プライバシーに配慮しながら個々に応じて声かけをして、可能な限り昼夜共にトイレで排泄できるように支援している。おむつを使用していた方が、リハビリパンツや布下着に改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便状況を把握し個別の状況に応じた対応を実施している。水分量や、運動量にも配慮している。また、必要に応じて看護師のアドバイスを頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は午後を設定しているが、要望に応じ午前中も可能である。また、本人の希望にそって毎日入浴することも出来る。	毎日入浴が可能で、各利用者が週2～3回入浴できるように支援している。気の合う利用者同士で、一緒に入浴する事もある。希望に応じて同性介助や、身体状況に応じて二人介助で支援して、ゆっくり入浴が楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら夜間に安眠でき、さらにメリハリのある生活ができるように支援している。休息も希望にそって対応・支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情で目的や用法、用量、副作用について確認している。服薬についての不安や疑問は看護師や訪問薬剤師に確認しアドバイスをもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の持てる能力に応じた家事等の参加を促したり、楽しみや気分転換が持てるよう心がけ、日々の支援や行事等計画し実践している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画を作成し、ボランティアさんのご協力を頂きながら実践している。天気の良い日は散歩や日向ぼっこ等気分転換を図っている。個別の希望がある場合にはご家族と協力しあい対応を心掛けている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、近くの小公園に出かけてベンチで日光浴を楽しんでいる。畑の様子を見に行くこともある。毎月1回は外出行事で、工場見学や新千歳空港、紅葉狩りなどに出かけている。昨年度は、冬季に温泉に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力に応じて所持していただいている。現在は1人の入居者が個別で所有している。金銭管理の困難な方には、施設管理により対応・支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人との関係性が継続できるように、お電話やお手紙の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快な思いをしないように常に清潔を維持している。窓からの陽ざしが適度にはいり、居心地よく落ちつける環境であるよう配慮している。音楽を流したり、季節に応じた飾り付けを入居者様と行っている。	回廊式の造りを活かして、廊下の各所に利用者がゆっくり落ち着いて過ごせるコーナーを設けている。コーナーの一角にはカフェが設置されており、好みの飲み物を楽しむ事もできる。観葉植物や花も多く飾られており、家庭的で温かな雰囲気が感じられる。浴室やトイレは、居間から見えないような場所に設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当施設の特徴を生かし、共有空間の改善を実施し、人の気配を感じる事ができ、一人になれる場所をつくる等の工夫を実践している。また、入居者様同士がくつろげるスペース造りなどに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持参し、個々の落ちついた生活空間となるよう、入居者の意思を尊重し室内空間を整えている。また、ご本人様が製作した飾りや写真を飾る等の配慮に心掛けている。	居室の入り口に、各利用者の干支の絵が掛けてあり、室内にはクローゼットとベッドが備え付けられている。テーブルや椅子、収納ケースや小物類を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。壁には、家族やペットの写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺り完備で自由にかつ安全に行動が出来、本人の持てる能力に応じた支援を心掛けており、また、定期的に相談役が巡回し、修繕・改善が必要な個所を確認し、自立した生活が送れるように配慮や工夫を行っている。解かりづらい個所については表示等により工夫している。		

目標達成計画

作成日：平成 26年 4月 28日

市町村受理日：平成 26年 5月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	テーマを設定した会議案内の送付で家族の意見が議題に上り、会議が意見交換、情報交換の場となり家族の関心が高まるような取り組みに期待したい。また全家族への議事録送付を期待したい。	施設がより良くなるための運営推進会議となるように、テーマの選定や工夫をしていきたい。	まずは、事業所内でテーマを選定した会議案内を送付したい。今後は、要望を聞き、テーマとしてとりあげてほしいことも参加者から意見があればとりあげていきたい。会議に参加できない方や、なかなか施設に来れない方にもわかるように議事録を送付する。	1カ月
2	35	災害時の地域との役割分担を運営推進会議で明確にし、町内会役員や近隣住民の参加を得て、夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。地震を想定し、事業所内で危険の確認やケア場面での対応などについて、職員間の話し合いを期待したい。	避難訓練に参加して頂けるように協力依頼を行う。今後は出来る範囲での役割分担を明確に決め、計画的に実践できるようにしたい。火災以外の地震の訓練も実施計画をたてる。	運営推進会議で話し合いを行い、協力して頂けるように進めたい。その中で避難訓練が出来るような体制づくりを実施する。避難訓練以外でも、避難誘導の練習や、地震時の対応方法など職員間で理解を深められるように会議時や日々の予定に組み込んでいきたい。	半月
3	1	新たな視点から職員間で話し合い、事業所独自の目標づくりを期待したい。	のりこハウスの共有理念に加え、グループホーム独自のホームの目標を掲げ活動の基盤とする。	ユニット会議で各自の目標とするグループホーム像の意見交換を実施して全員で独自の目標をつくり日々のケアを実践する。	半月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。